

学校便り「かがやき」No.16

「如己愛人」

この言葉は、永井隆博士が大切にしていた言葉です。永井博士は、長崎大学病院で被爆し、自ら病床の身でありながら倒れるまで人命救助と医学の発展に尽くした長崎を代表する偉人です。

本日、被爆体験講話を実施しました。今年度の講師として、山里小のそばにある永井隆記念館館長の永井徳三郎先生をお招きしました。徳三郎先生は、永井博士のお孫さんにあたります。

徳三郎先生は、父である永井博士の子、誠一（まこと）さんや叔母の茅乃（かやの）さんの遺志を引き継ぎ原爆の恐ろしさや祖父の永井博士の活動についてご講話いただきました。

講話を聞いた5・6年生は、永井博士は、自らも被爆し、病気でも被爆した患者を救うために努力していたことが心に残ったと感想を述べました。

徳三郎先生は最後に、世界平和という大きな目標を目指すよりは、身近なところ（家族や学校）から小さな平和をつくることを目指してほしいとおっしゃいました。そして「心優しく 命を大切に 支え合い 助け合う気持ち」をずっともち続けましょう。それは、永井隆博士が大切にしていた言葉「如己愛人（おのれのごとくひとをあいせよ）」につながりますと。

今週日曜日から「戸町っ子の心を見つめる教育週間」です。徳三郎先生からいただいた言葉を子供たちと一緒に実践していきます。

校長 原口徹弥